



2019 年お正月山行 金 峰 山

日 程：2019 年 1 月 2 日～3 日

コースタイム：

2 日 金峰山荘 11:25 - 林道終点 13:10/13:20 - 金峯山小屋 15:45

金峰山小屋泊

3 日 金峰山小屋 6:15 - 金峰山山頂 6:40/6:55 - 金峯山小屋 7:10/8:05 -

大日小屋 10:20 - 富士見平小屋 11:15/11:30 - みずがき山荘前 12:05



装備に迷う

雪が少ない今年の冬、金峰山も例にもれず、なんだか雪が少なそう。

ヤマケイに掲載された金峰山小屋の情報だと、雪が一番深いところでも 20 cm 程度で、ピッケル不要と書いてある。ヤマレコでも、チェーンスパイク大活躍、12 本爪アイゼンの出番なしとの声多数。天気予報を見ても、しばらく雪の気配なし・・・一応、冬靴、12 本爪アイゼン持参でいくけど、うーん、なんだかちょっと、冬靴必要？！

ふわふわの雪山とホスピタリティ抜群の金峰山小屋

特急あずさと在来線、タクシーを乗り継いで廻り目平の登山口へ。廻り目平からの登山道は、それでも前夜に降った雪でなんとか雪で覆われていた。ふわふわの雪が 5 センチほど。林道から登山道に入るとさすがに雪はしっかりあり、樹林帯の中、アイゼンをつけて、のんびり登って小屋に着いた。

山頂から 20 分ほど降りたところにある金峰山小屋は、こたつと羽毛布団のあるキレイで暖かい小屋だ。オーナー一家のホスピタリティも抜群で、コーヒー、ココアなどのお茶類はもちろん、薪ストーブの上にある大きな鍋に入った甘酒もセルフで飲み放題。喜んだヤマダは何杯も甘酒をお変わりした挙句、思わずテルモスに甘酒を詰め始め…

というのはリカさんの妄想で、私はそんなことしませんよ！食後は、1 杯 500 円で売っていたお酒類も飲み放題になり、オーナーのお子さんがかわいい声で「お酒、飲んでくださいね～」と 2 階に呼びに来る。なるほど人気の理由がわかります。



エビフライにチーズケーキ付き！

1 月 3 日の御来光

翌朝、御来光を見に行くことにした女性 3 人は、暗い中、小屋を出発して山頂へ。カリカリに凍った、結構急な斜面を登っていく。動いていても手先、足先がジンジンするほどの寒さ。山頂に着くと、ピンク色の



山頂にて

空と富士山が迎えてくれたけど、日の出までの数分が長く感じるほど寒い。あきらめそうになる中、ダイヤモンドのようなお日さまが上がったのを確認して、さっさと下山した。小屋に戻ると、野崎さんと、こたつ、お雑煮とおせちの朝ごはんが待っていた。



チェンスパイクの威力

今回の金峰山、思ったよりは雪はあり、12本爪アイゼンもそれなりに役に立った。しかし、今回、チェンスパイクで歩いている登山者もかなりいて、メンバーの中でも山田　　さんはチェンスパイクで全行程歩き通した。そういう私も今回、新品のチェンスパイクを初導入。雪が少なくなり、茶色い土がところどころ露出し始めたところから使ってみると、雪のない石ころだらけの道を爪の長いアイゼンで歩く煩わしさや、アイゼンをひっかけて転ぶ心配から解放されてかなり快適。うん、なかなかよい。残る問題は、チェンスパイクがまだ新品で、ゴムのところがなかなか伸びず、装着が大変なことだ。冬装備の着ぶくれ状態で、長く屈んだ状態を続けるのは、く、苦しい・・・！早く伸びきったパンツのゴムみたいになってほしい。

意外な落とし穴・・・

瑞牆山荘に下山して、そこからバスに乗る。増富温泉でいったんバスを乗り換えて、荳崎駅まで行く予定だ。運転手さんに聞くと、瑞牆山荘から増富温泉までのバスはお正月期間だけの営業で、この3日の日が最後。しかし！！増富温泉に到着して荳崎行きのバスに乗り換えようとすると、バス停ヨコの売店のおじさんが「今日はそのバス、ねえぞ。書いてあるだろ。」と言。バス停の時刻表を見ると、小さな文字で「◎印の便は、4日から営業します」と書いてある。

えええ～！

せっかく瑞牆山荘から増富温泉までの便があるのに、これじゃあつながらないじゃん！

急きょタクシーを呼んで、タクシーで荳崎駅に向かうことになる。一人2,200円なり。

タクシーを待つ間、売店のおじさんが親切にも、店内で休憩してもよいといってくれたのだが、この店、見回してみると、スズメバチをつけた酒だの、マムシ酒だの、さるのこしかけだの、ヘンなものばかり売っている。一体、誰が買うんだろ？？？

(了)